

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

も く じ

- 障害者の0～100歳…………… 1-2P □リレーインタビュー…………… 3P
□特集 ちた子ども若者支援ネット…………… 3P □インフォメーション…………… 4P

障害者の0～100歳 ベティ基金活用を

知多地域で高齢者介護施設を経営する株式会社RandTカンパニーの出資を基に、障害児者支援団体が活用する「ベティ基金」が立ち上がっている。基金の成果と今後を関係者に語ってもらい、知多地域の「障害者の0～100歳」を描く座談会を開催した。出席者は次の通り。

出資者／(株式会社RandTカンパニー)久保利洋・久保里栄・田中祐樹 審査員／(2市2町障害者ネットワーク会議)今井友乃 団体／(わかばの会)川口幸代・嘉悦恵美子 (Papaだっこ)山本純久 (NPO法人PakaPaka)土肥りさ (東浦育成会ふれんず)原田展子・水野久子・斎藤節子 進行／(地域福祉サポートちた)岡本一美・江端智子
まずは、資金の出し手である久保利洋さん、久保里栄さん、担当の田中さんに、その思いをお聞きます。

(久保利) 介護保険施設収益の一部を活用してもらおうよう、サポートちたに依頼して基金を立ち上げた。知多地域の障害者支援団体への支援を目的としている。



RandTカンパニーの久保利洋氏、久保里栄氏、田中祐樹氏

(久保里) 福祉で仕事をし、公では取りこぼされてしまう案件をいくつか見てきた。13年前、行くところのない高齢者の方を何とかしたいとベティさんの家を造った。その頃の思いを持ち続け、生きたお金の使い方をしたいとこの基金を立ち上げた。2年続け、活用団体の声を聞く機会ができて、本当に地域にはがんばっている人たちがたくさんいると知ることができた。多くの人たちにこの基金のことを知り活用していただきたい。

(田中) 思いのある団体、いろいろな活動があるものだと知った。みなさんの手助けをしたいとモチベーションを上げて取り組んでいる。

これまで27年12団体、28年8団体が受領、先ごろ4団体が

決定しました。まずは「わかばの会」より活動の紹介と基金の活用法についてご報告ください。



座談会で活動を語り合う参加者

(わかばの会) ダウン症を持つ親子の会で、1歳

から20歳まで知多半島の30人が会員。今回は武豊町公民館でのうどん打ち体験に活用した。2家族に1人ボランティアがつき、楽しい時間を過ごした。

今年度(2回目)頂く基金では、写真展を行う。ミクシーでダウン症の「21+happy」というグループができ、東海3県巡回で写真展を開催している。今回は100枚限定で知多半島で展示、常滑イオンに相談したところ、福祉の枠で無料貸し出しができると聞いた。会場料は無料だが、初めてのことで細かな備品が必要、1000円の会費では賄いきれず、ベティ基金を利用させていただくことになった。今後は隔年で写真展を開催、講演会もやってみようと思っていて話合っている。

ショッピングモール開催ということで、いろんな方の目に触れますね。こうした基金がこの地域にあって、これを利用してこんな事ができるといったことを伝えていただく機会にもなると思います。もう一団体、活用頂いた「PaPaだっこ」はいかがでしたか。

(PaPaだっこ) 会員アンケートを取り、みかん狩りに出かけた。障害児を持つ父親の会で、何かをやるときは「母親に楽をしてもらう」のが趣旨。イベント時に弁当を作ることは意に反するため、知り合いに依頼して弁当を安く、豪勢に手配、みんなにも喜んでもらった。7割の家族が参加できた。

1年目の交流会の際に、団体共通の課題として、思春期以降の「性の問題」がある。団体がつながっていっしょに考えていけるといいねとの声がありましたね。(P.2へ)

(PaPaだっこ) 2年連続で、あいち小児医療センターの医師・看護師を講師に招き、性について問題点・指導方法を学び、「いるかクラブ」が参加しました。

団体同志の連携もあるということですね。では、活動はこれからという「NPO法人PakaPaka」お願いします。

(PakaPaka)



家族支援の必要性を説く土肥氏

武豊町で、発達障がい児の療育支援・学習会・家族支援の三本柱で活動を行っている。

知多南部で障害者支援の活動をしていたが、生まれた我が子に発達障害があり、児童発達支援事業、デイサービスで、科学的根拠のある個別療育と集団療育を行っている。こちらは公的サービスだが、障害のある子どもを育てるのに必要な家族支援は公的サービスではないので財源がない。知多半島全域で50名の会員があり、家族対象のイベントを年3回実施している。ここにベティ基金を利用させていただく。

こうして思いを伝えながら現在寄付を集めているというお話もあり、家族支援を幅広く進めていきたいということでした。最後にNPO法人絆の紹介ですが「東浦町育成会ふれんず」の思いをお聞きます。

(ふれんず) 子どもに主に知的障害があり、現在会員は61世帯、未就園児から年齢の高い方まで幅がある。「障害」を理解してもらうために、小中学校の福祉講座等で年に4回キャラバン隊を実施。昨年度は防災学習の場を開催、今年度赤い羽根募金分配金10万円を頂き避難所疑似体験を実施した。子どもたちの反応は？隔離が必要？非常食は？など災害に備えて、いろいろな問題がある。今回はテントに、次は1泊とひとつひとつ活動を広げ、体験を重ね、地域の自主防災組織に災害時の障害者の状況を知っていただき、地域の防災訓練にも参加できるように、防災学習を継続することに、ベティ基金を利用したい。町からの補助金は減らされ、しかも半額助成、飲食には使用不可。於大まつりでバザー出店し、一年の事業費を稼ぐのに役員は必死になっている。

日ごろの活動が非常時に役立つようにですね。公的助成の話もありました。その見地から2市2町障がい者ネットワーク会議の今井会長、いかがでしょうか？

(今井) 任意の活動でこそ細かいところに手が届く。公的制度は雨露しのぐが限界。その人らしく生活するには私たちがプラスαしなくては、思いのこもったものにならない。横でつながって情報交換したり、違う話を聞いたり、この基金のよう

に、高齢の方のお金で障害の方をなんとかするなど、民間の知恵が要る。みなさんの活動は「障害の人は特別」と思っている人たちに、「特別でもなんでもない。知らないから特別とってしまう。少し手を差し伸べたら大丈夫」ということを伝え広げていただきたい。こんな事したい、と思ったときには「夢を語る」こと。ベティ基金を上手く活用してほしい。

この先のみなさんの夢・展望を教えてください。

(Papaだっこ) 子どもは日々成長するので、先読みして勉強会を行いたい。今は一般就労の可能性のある子どもへの支援を考えている。親が亡くなった後子どもだけで生活できる状況を作りたい。父親の会を他地域へも広げていきたい。



自立のための「住まい」や「しごと」が今後の課題

(わかばの会) 親からの自立、家を出れば自立かと言われるとそうではないのは分かっているが、一度は親から離れた生活を体験して欲しい。そういう場をグループホームという形で賄うのか。デイサービス(日中支援)があり個人で住めるアパートがあれば、「自立」が段階を追ってできると思う。これが知多半島に少ない、いやほぼないのでは？

(今井) グループホームは最終ではなく通過点。一度一人暮らしを経験し、ダメなら戻ればいい。本人も幅が広がる、他人と触れ合うことができる。戻れる家があるうちに。

(ふれんず) 育成会では就労A型施設が少ない、卒業後に行く場所がない、という課題が出ているが。

(今井) 2市2町で障害の事を考えてきたが、これでは駄目で、何年も前から各市町で考えるべきと唱え、ようやく各市町ごとに施策実施するようにならった。

(わかばの会) 行政に聞けば、作業場をつくる計画はない、とのこと。民間で立ち上げやっつけていく時代になっていると思う。

(今井) 民間がやっけて国の制度を引っ張ってくるほうがいい。当事者や家族のみなさんのチカラに期待したい。

「自立」に向けた住まいやしごと。まだないものを創り出していくのが市民活動団体やNPOの役割。ベティ基金を活用して「あったらいいな」を実現し、0~100歳の地域包括ケアのまちづくりを推進していきましょう。

ベティ基金問い合わせ先：0562-33-1631 担当江端

特集 ちた子ども若者支援ネット

平成22年4月に「子ども若者育成支援推進法」が施行され、子ども若者の課題を社会全体で支援する機運を知多地域に広げようと翌年、民間で立ちあげた。この基盤をもって平成27年4月から知多市子ども未来部若者女性支援室に知多市若者支援地域協議会が設置され、今年度は調査を行い、民間の寄付金を原資に知多市若者就労体験を試行した。これまでの経緯、今年度の取り組みおよび構成団体については以下の通り。（海老原・市野）

これまでの経緯

制度では補いきれない日常生活を支える知多地域のNPO関係者等が平成23年4月に集まり、母子・乳幼児、学齢期、就労含めた青年期の支援実践報告より、世代を超えて子ども若者を支える心の通い合う地域づくりを目指すプラットフォーム「知多子ども若者支援者ネットワーク会議（以下、子若ネット）」を立ち上げた。月に一度の定例会議では、出入り自由かつ柔軟な会議体として課題に対して対等な関係を担保しながら、不登校・ひきこもり家族支援相談会（愛知県委託）を開催、NPO・社協・教育機関・保健所・行政の多職種連携を推進した。

2回の相談会に寄せられた課題をまとめて、平成25年から26年にかけて中間就労調査事業（モリコロ基金助成）を行い、知多市内を中心に就労先開拓を拡充、27年度は知多市若者支援地域協議会として中間就労支援フォーラムを開催した。

今年度の取り組み

平成28年6月に知多市商工会を通じて市内事業所を対象に若者の中間就労に関するアンケートとヒアリングの結果、34社の事業協力を得ることができた。これを機に知多ロータリークラブ、知多ライオンズクラブから寄付を受け、障害福祉サービスを受けていない概ね15～39歳までを対象にした試行的な若者就労体験事業を開始。若者支援センター、生活困窮者自立支援窓口での相談や子若ネット参画団体の支援対象者で本人が就労体験を希望する場合、事業所との調整と見学をユースアドバイザー等支援者が行った後に就労体験となる。体験も本人が希望する場合支援者が同行する。



内閣府ユースアドバイザー養成の様子、知多市登録は現在90人

昨年11月から現在までの実績

ふくし職員1人インタビュー

長久手市社会福祉協議会 地域福祉係 CSW

加藤昭宏さん

個別相談を行い、地域で支え続けられる仕組みを作る地域のお助けマンとして西小校区共生ステーションで相談に応じている。アウトリーチ活動や、身近な存在である自治会回覧に相談案内を同梱させる等早期発見に努め、ひきこもりやゴミ屋敷等の制度の狭間の相談に向き合うことを目指す。



大学卒業後に名古屋掖済会病院のMSW（医療ソーシャルワーカー）として勤務し、当直での保険事務や看護学校の講師も並行しながらソーシャルワークの修士学位を取得、今春から博士課程に入る。転職して3年目、CSW（コミュニティソーシャルワーカー）として長久手市の地域福祉活動計画重点事業3本柱を支えている。

子育て家族の転入が多い西小学校区の地区社協では、見守りサポーターを受講した県大社会福祉学科の学生と一緒に子育て不安軽減部会として子育て応援冊子を作成し、学生と地域との連携も進めている。（市野）

は、8人の若者が6事業所で就労体験。昨年度支援した2人は就労に結びついている。就労体験の仕組は、若者を受け入れる事業所に協力金、若者に交通費相当額、ユースアドバイザー等支援者に謝礼が支払われ、就労体験者には知多市まちづくり活動補償が適応される。この試行的な就労体験事業を実施する中で、手順や支援者との関係づくりなどを見直ししながら仕組を確立し、軌道に乗せていく予定。次年度以降は、体験者や受入事業者の拡大、ひきこもり等に悩む若者の社会参加を支援していく。

構成団体（平成29年2月末現在、10団体）

(N)エンド・ゴール、(N)こころとまなびどっこむ、(社団)サポートネットゆっか、KTC中央高等学院、(N)地域福祉サポートちた、(N)toピア、知多市社会福祉協議会、知多保健所、知多市（福祉課、子ども若者支援課若者女性支援室）

サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

■助成金情報

◎第29回 地域福祉を支援する「わかば基金」

(申請受付) 2017年3月31日(金)必着(郵送のみ)
(申請書) <https://www.npwo.or.jp>からダウンロード可
(内容) ①支援金部門(1グループにつき、最高100万円)
(対象) 地域に福祉活動の拠点を設け、活動を広げたい団体
(問合せ) 社会福祉法人NHK厚生文化事業団「わかば基金」係
☎03-3476-5955(平日10～18時)

■若者就労支援フォーラム2017

(日時) 2017年3月12日(日)13:30～16:00
(会場) 知多市青少年会館(知多市八幡堀切91-1)
(内容) 第1部 講演「名古屋市の中間就労支援事業」
第2部 知多市就労体験報告(ちた子ども若者支援
ネット、若者就労体験受入事業所)
(参加費) 無料、定員80人
(申込・問合せ) 知多市若者支援センター☎0562-36-2960

■「ワガコト」サロン【第8回】子どもの貧困解決に 本気で挑む「コレクティブ・インパクト」

日本は約6人に1人の子どもが貧困状態にあり、子どもの貧困に取り組むNPOもたくさんありますが、「他の団体と連携できていない…」という課題があります。今回、ゲストにCollective for Childrenの共同代表の高亜希さんをお招きします。同団体は豊富な実績を持つ子ども支援のNPOが中心となり、行政や専門家などが垣根を超えて連携し活動する「コレクティブ・インパクト」に挑み、乳幼児期～成人に至るまで切れ目なく支援することで、その地域の子どもの貧困や貧困の連鎖解消を目指しています。

(日時) 2017年3月10日(金) 15:00～17:00(受付14:45～)
(会場) グロービス経営大学院 名古屋校(愛知県名古屋市中村区名駅南1-24-20 名古屋三井ビルディング新館4F)
(参加費) 2,000円(軽食代込/税込)、定員30人(先着順)
※2人以上の事前申込は参加費が1,500円/人
(公財)あいちコミュニティ財団 担当:荒木、今福、長谷川
E-mail:office@aichi-community.jp Tel:052-936-5101

■あなたの事業所のテーマソングを作ります！

昨年4月に北海道から越してきた、“無脳薬(むのうやく)ミュージシャン”高松信友(たかまつしんすけ)が、あなたの事業所のテーマソングを作ります。テーマソングとは、つまり「社歌」のことです。あなたの事業所の魅力や特徴、イチオシポイントや将来の展望などをメロディーに乗せて紹介できます。言葉だけではなかなか思うように相手に届かなかったことも、歌にすることでよりわかりやすく、幅広く、更に相手に好印象を持ってもらえる確率もグーンと上がります！講演会やプレゼンテーション、説明会などでも使えるテーマソング。無形の財産だけに、壊れる心配もありません！価格は15万円から、受け付けております。まずはお気軽に電話/FAX、メールにてご相談下さい！高松信友 ☎080-7034-4748(受付時間 9:00～18:00) メール / shinsuke.music@yahoo.ne.jp(随時)

(N)びすた〜り・ライフサポートステーションふるぼ
木曜日、日曜日定休 ☎0562-85-1185 (8:45～17:30)
FAX 0562-85-1185

■スタッフ募集

①訪問介護ヘルパー

(内容) 高齢者、障がい者の身体介護、生活援助、移動支援
(資格) 運転免許、ホームヘルパー2級(初任者研修修了)以上

②たすけあいヘルパー

(内容) 掃除、洗濯、食事作り、買い物、病院への送迎や
付き添い、お弁当配達
(資格) 資格不問(病院送迎とお弁当配達のみ運転免許)

③サービス提供責任者

(内容) 介護保険利用者のサービスのコーディネート
(資格) 運転免許、介護福祉士
(問合せ) (N)ゆいの会 ☎0562-32-5906

■サポートちた 介護職員初任者研修通信課程

(日程) 4/22～7/29(スクーリングは毎週土日開催)
(スクーリング会場) 知多市市民活動センター
(受講料) 70,000円(実習費・テキスト代含)
(問合せ・申込) 地域福祉サポートちた 担当:山森・竹内(美)

【平成29年度通常総会】

開催日 5月25日(木)
会場 知多市市民活動センター
タイムスケジュール
10:00-13:00会員交流会(昼食付 参加費500円)
「NPO雇用調査報告会」講師千頭聡先生
(日本福祉大学国際福祉開発学部教授)
13:30-14:30通常総会



特定非営利活動法人
CFSC 地域福祉サポートちた

478-0047 知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階

Tel 0562 (33) 1631
Fax 0562 (33) 1743